

7月3日 TRUNK 株式会社 創業者 代表取締役 西元涼氏

### 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ

親の会社が倒産したため自分で学費を払うことができる大学に進学するしかなかったという経験から、やる気があればオンライン・オフライン問わず誰でもどこにいても完全無料で学べるようになったらしいと考えたということが心に刺さりました。自分の原体験が起業の理由の人は、だいたい起業に対して情熱を持っているということをこれまでの起業家の方々の講演を聴いて感じていましたが、今日の西元さんのお話を聞いて再確認することができました。

また、デトロイトトマツにいた頃、人事コンサルティング部門で学生が、コンサルティングをしたことがないのにコンサルティング会社に就職したいと語っているのを聞いて、やったことがない仕事をやりたいと言っていることに違和感を覚えたとおっしゃっていました。自分のやりたいことは実際に体験してみなければ見つけられないものだから、なんでも体験してみなければという言葉が印象に残りました。1~3年生の間に自分のやりたいことを見つけるための活動をしておくべきという言葉は、これまでの起業家の方々もおっしゃっていたので、本当にその通りなのだろうと感じました。そのためには様々な業種のバイトをしたり、インターンに参加したりすることでいろいろな体験をすることが大事だとわかりました。

インターンで採用される人は伸びそうな人や勉強をしている人と西元さんはおっしゃっていたことから、本を読むことは企業が欲しい人材になるために必要不可欠だということが伺われました。興味のある職種の勉強を少しでもしておくことが自分のやりたいことを見つけるための近道だから、週に2時間だけでも勉強をすることが重要とおっしゃっていて、AIに勉強プランを立ててもらうという案は現実的で私にもできそうだと感じました。いくつかの企業のインターンに参加するにあたって、前の職種に引きずられて新しい職種に挑戦しないのではなく、果敢に新しいことに挑戦して本当にやりたいことを見つけることが大事だと学ぶことができました。(経営学部1年)

今回の西元さんのご講義と質疑応答を通じて、将来の「線」につながる「点」をどのように見つけ、積み重ねていくかについて、多くの気づきと視座を得ることができました。中でも、「やりたいことは変わってもいい」という言葉が特に印象に残りました。行動方針の“本質的な軸”が明確であれば、その時々で目標や方向性が変化しても構わないという考え方方に、大きな安心感と納得を覚えました。

さらに、「本気」「成長」「実現性」という視点をもとに、まずは継続可能な行動に落とし込んで目標を設定することが、結果を生む上で重要だというアドバイスも心に残っています。

ます。「本気で取り組む」ことでこそ、成長や成果が生まれ、それがキャリアにおける視野や選択肢を広げる「点」となる。だからこそ、物事に真摯に向き合う姿勢の大切さを、改めて実感しました。私はこれまで、「やりたいこと」の方向性は持っていたものの、それがどのような職業に結びつくかを言語化するのに苦労していました。しかし今回、西元さんのお話やAIとの壁打ちを通じて、自分のビジョンに近い職業像や具体的な仕事内容を明確にすることができました。それにより、就職活動までに身につけるべき力も見えてきて、今後の行動方針を整理することができました。

「本気で取り組む」対象と、それを実現するためのプロセスに関する多くのヒントをいただき、大変貴重な学びとなりました。ありがとうございました。(経営学部2年)

本日は大変貴重な講義をしてくださいありがとうございました。「生まれた環境に関係なく、やる気次第で誰でも活躍できる世界をつくる。」という理念のもと、能力のある新たな人材を開発しつつ、社会の生産力を底上げしているTRUNK株式会社様の取り組みについて理解を深めることができました。西元さんのお話の中で特に印象に残ったことは2つあります。

まず1つ目は、大学生は1~3年生の間にやりたいことを見つけるのに多くの時間を割いた方がよく、やりたいことは実際に体験してみなくてはわからないということです。私は現在大学1年生なのですが、将来の職業について日々頭を悩ませていました。最近、自分がちょっとやってみたいなと思う仕事を見つけたのですが、やはり実際に体験してみないと本当にその仕事をやりたいのかわからないだろうと思いました。早いうちから興味をもったことにどんどん挑戦してみて、自分が生涯をかけてやりたい仕事を見つけたいと思います。そのため、今日の夜からインターンシップに関する情報をたくさん集めたいと思います。

次に2つ目は、西元さんは企業のビジョンを顧みて事業の方法を変革したということです。これは会社ではなく個人にとっても大切なことだと思いました。長期的な目標を立てて、それに向かって歩みだしたのなら、定期的にフィードバックをして、自分の目標に着実に近づけるようにしたいと思います。(経営学部1年)